



## 歓迎される旅人になるために

3学年主任 大島 裕子

どこか遠い外国の出来事としてとらえていたオーバーツーリズムを、わたしたちが身近な問題として意識しはじめたのは、いつぐらいからでしょうか。朝日新聞のコラム「天声人語」では2023年の11月に「持続可能な観光地」というテーマで、ベネチアが登場しています。

かつて、修学旅行の引率で京都に行ったとき、「バスが満員で清水寺に行けません。」との連絡を多くの班から受けていました。また、鎌倉校外学習では、横須賀線から下りてお手洗いにいこうとすると、いつも長蛇の列で、困っていたことを思い出しました。私たちにとってはその日だけの不便かもしれませんが、住民の方にとっては深刻な社会問題であることに気づかされます。

今年度、3年生の修学旅行は行き先を例年の京都・奈良ではなく、北陸方面に変更して実施しました。

2泊3日の行程の中で、オーバーツーリズムを避け、持続可能な修学旅行とするために心がけたことを三つ、あげてみたいと思います。

### 1 行き先を変える

例年の定番・京都、奈良ではなく、北陸を選びました。大阪万博が開催されているため、すでにオーバーツーリズムが指摘されていたためです。福井県小浜市の阿納地区でシーカヤック体験と魚さばき体験を行い、自然に触れたり、地産地消の魚や米をいただいたり、民宿のおかみさんや漁協の漁師さんとの交流を楽しんだり、豊かな体験をすることができました。

### 2 平日にでかける

結果的にではありますが、火・水・木という平日にでかけたことで、よりオーバーツーリズムを避け、活動がしやすくなりました。2日目の宿は貸し切りにしていただきましたし、伝統工芸体験の施設の方も余裕があったのか、とても親切に対応してくださいました。金沢市内班別行動でも他校の生徒を見かけることがほとんどありませんでした。

### 3 歓迎される旅人になる

わたしたちが「来て良かった」と思える旅であると同時に、住民の方に「来てもらってよかった」と思われるような旅であることが大切です。普段から、当たり前のこと（あいさつ・時間を守る・整理整頓をこころがける、など）を大切にする、という指導を行っているため、民宿でも主体的に考えながら行動することができていましたし、集合時や体験学習中のマナーも良く、ほめていただくことが多かったです。

来年度の修学旅行の行き先は、従来通り、京都・奈良方面となっています。行き先はどこであれ、オーバーツーリズムに加担しない、持続可能な修学旅行、という視点がより一層大切になってくると思います。

参考文献 田中俊徳『オーバーツーリズム解決論 日本の現状と改善戦略』

村山祥栄『京都が観光で減じる日 日本を襲うオーバーツーリズムの脅威』

